

未来への扉が開く3日間

社会的インパクトに関する年次カンファレンス

Social Impact Day 2024

インパクト・エコノミーが実現する
" システム・チェンジ "

- セッション一覧 -

主催：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ／一般財団法人社会変革推進財団

Day1: 2024年5月15日(水)		Day2: 2024年5月16日(木)※オンライン配信			Day3: 2024年5月17日(金)※オンライン配信		
10:00-10:20 (20分)	オープニング・トーク(無料)	09:30-10:20 (50分)	スペシャルセッション③(有料) 『パーパス経営と社会的インパクト：持続可能なビジネスの新たな可能性』		09:30-10:20 (50分)	通常セッション⑦(有料) 『インパクトエコノミー時代を体現する新しい起業家たち』	通常セッション⑧(有料) 『財団によるインパクト志向の取り組みの最前線』
10:20-11:10 (50分)	基調講演①(無料) 『インパクト会計をめぐるグローバルな潮流と今後』	10:30-11:40 (70分)	スペシャルセッション④(有料) 『Beyond Impact Investment: インパクトエコノミー実現の 2ndステージへ ~GSG Japan NAB設立10周年に、次の 10年戦略を構想する』		10:30-11:20 (50分)	通常セッション⑨(有料) 『「IMPACT SHIFT」を経て見えてきたもの ~Z世代の4人がインパクトのこれからを考える』	
11:30-12:40 (70分)	スペシャルセッション①(有料) 『コレティブインパクトで目指す新たな資本主義「共助資本主義」の実現』	11:50-12:40 (50分)	通常セッション①(有料) 『上場するインパクト企業: インパクト拡大と事業成長を実現するための経営と資本市場との向き合い方』	通常セッション②(有料) 『高齢化するアジアにおけるインパクト創出に向けたフィランソロピーと投資の触媒的な役割』	11:30-12:20 (50分)	通常セッション⑩(有料) 『"B" THIS WAY FORWARD ~日本でも動き出す B Corpムーブメントの最新動向~』	
～ ランチタイム ～		～ ランチタイム ～			12:20-12:50 (30分)	クロージング・トーク(無料)	
13:30-14:30 (60分)	基調講演②(無料) 『チャイルドレンズ投資とは～将来世代を最優先に考える投資フレームワークの紹介』 基調講演③(無料) 『インパクト投資におけるインパクト・マネジメントの現状と課題～ BlueMark の最新ベンチマークレポートをもとに』		13:40-14:30(50分) 通常セッション③(有料) 『ソーシャルインパクトの「呼び水」～日本における触媒的資本の活用～』	13:20-14:30(70分) 協賛セッション③(無料) 『ショートピッチセッション: インパクト創出への取り組み』			
14:50-15:50 (60分)	スペシャルセッション②(有料) 『本質的な社会課題解決を促す「システムチェンジ投資」とは』	14:50-15:40 (50分)	協賛セッション④(無料) 『インパクト“K”プロジェクト座談会 ~業界をリードするインパクト投資家が、実効性のあるインパクトファンドの実現を語る～』				
16:10-17:00 (50分)	協賛セッション①(無料) 『インパクトエコノミーにおける金融の役割』	16:00-16:50 (50分)	通常セッション④(有料) 『データから見る日本におけるインパクトエコノミーの現状』	通常セッション⑤(無料) 『国連「持続可能な開発パフォーマンス指標 (SDPI)」のご紹介～サステナビリティ指標を持続性達成に必要な水準との相対的評価において考える』			
17:10-18:10 (60分)	協賛セッション②(無料) 『「インパクトの創出」と「収益の創出」の好循環を実現するインドのインパクト企業に迫る！』	17:00-18:00 (60分)	通常セッション⑥(有料) 『次世代が語る「インパクト・ファイナンス」の今後 ~ここが変だよ、インパクト投資。今後の目指すべき方向性とは？』		16:30-18:00 (90分)	特別企画(無料) 『UNICEF チャイルド・レンズ投資を理解する』	
18:40-20:00 (80分)	懇親会(有料)				18:30-20:30 (120分)	特別企画(無料) 『BlueMarkとインパクト検証』	

1

5月15日(水)

日英
同時通訳

10:00 - 10:20

無料 セッション

【オープニング】

オープニング・トーク



Speaker

水口 剛

公立大学法人高崎経済大学学長、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

筑波大学卒。ニチメン(株)、英和監査法人などの勤務を経て、2008年、高崎経済大学経済学部教授、2021年より現職。博士(経営学、明治大学)。専門は、非財務情報開示、責任投資(ESG投資)など。市場メカニズムを通して持続可能な社会を実現するためにESG(環境・社会・コーポレートガバナンス)の要素を投資意思決定に統合する責任投資を日本で定着させることを目指して研究・提言している。環境省「グリーンファイナンスに関する検討会座長、金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」座長、「インパクト投資等検討会」副座長、「インパクトコンソーシアム」会長などを歴任。主な著書に『責任ある投資—資金の流れで未来を変える』(岩波書店)、『ESG投資—新しい資本主義のかたち』(日本経済新聞出版社)など。



Speaker

青柳 光昌

一般財団法人社会変革推進財団 専務理事

1991年に日本財団に就職。阪神淡路大震災後の復興支援活動、障害者移動困難の解消NPO支援センターの強化といった市民活動のテーマに取り組む。その後、企画部門、組織開発や人事を担当。東日本大震災後は、財団内に立ち上げられたタスクフォースのリーダーの任につき、社会的起業や行政と連携した数多くの支援事業に携わる。2015年より、日本におけるインパクト投資の普及、政府と協働での子供の貧困対策に従事。2017年、当財団を設立し、経営に携わっています。経営学修士。他にグロービス経営大学院講師や公益財団法人ベネッセこども基金理事なども務めている。



Moderator

高木 麻美

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ理事、
株式会社Stem for Leaves代表取締役

多様な業種における全社戦略・部門別戦略の策定・実行支援のほか、新規事業立ち上げ支援、M&A、企業再生等の実績を有する。公共セクターに対しては、調査研究や事業実施支援の経験を有し、近年はインパクトの可視化やデータ活用に注力しているPwCコンサルティング、ペイン・アンド・カンパニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人を経て(株)Stem for Leavesを設立し、代表取締役に就任、現在に至る。多摩大学社会的投資研究所客員研究員。早稲田大学政治経済学部卒業。ワシントン大学行政経営大学院修士課程修了(MPA)

5月15日(水)

10:20 - 11:10

無料 セッション

日英
同時通訳

【基調講演①】

インパクト会計をめぐる グローバルな潮流と今後

社会的価値をもたらす企業をどのように適切に評価するかについての議論が活発化しています。評価方法の実現可能性、標準化、比較可能性、その応用、そして透明性要件への統合に特に注目が集まっています。スピーカーであるChristian Heller氏は、ビジネス主導のイニシアチブであるthe Value Balancing Alliance (VBA)の創設者兼CEOであり、ドイツ政府の持続可能な金融諮問委員会の副議長、およびBASFの副社長です。VBAは、ハーバード大学のImpact-Weighted Accounts InitiativeからスピノフしたFVIと共に、企業活動の影響を金銭換算して開示する方法としてのインパクト会計を開発し、テストしています。これは企業自身とそのステークホルダーのためです。

基調講演では、まず、Heller氏がインパクト会計と世界における潮流を概観します。次に、VBAの会員企業でもある三菱ケミカルグループ株式会社の執行役員、チーフサステナビリティオフィサーである三田氏、スイスのビジネススクール、IMBのソーシャルイノベーションセンター長、EMBAプログラム長であるFarber教授を交えて、インパクト会計の意義と課題について議論し、参加者からの質問にも答えます。



Speaker

Christian Heller 氏



Speaker

三田 紀之 氏



Speaker

Vanina Farber 氏



Moderator

高木 麻美

CEO Value Balancing Alliance e.V. / Vice President BASF SE /

Co-chair Sustainable Finance Committee to the Federal Government of Germany

ビジネスにおけるサステナビリティと金融市場におけるサステナブル・ファイナンスの架け橋として、インパクト・ムーブメントにおいて世界的に有名なリーダーの一人であるChristian Hellerは、化学大手BASFの副社長であり、Value Balancing AllianceにCEOとして出向し、ドイツ連邦政府のサステナブル・ファイナンス委員会の共同委員長を務めるほか、サステナビリティに関するビジネスイニシアチブ、基準設定、政策立案、学術機関、民間社会組織において、国際的なスケールで様々な役割を担っている。また、グローバル・バリュー委員会のコミッショナー、G7インパクト・タスクフォース諮問委員会をはじめとする複数の諮問委員会の委員、シュマーレンバッハ・サステナブル・ファイナンスのワーキンググループ／中小企業のためのサステナブル・コーポレート・ガバナンス原則の専門家委員会のメンバー、IFVI理事会のオブザーバーなども務めている。

三菱ケミカルグループ株式会社執行役員 チーフサステナビリティオフィサー

東京大学法学部卒業後、通商産業省(現 経済産業省)に入省。 同省通商政策局にて課長職を歴任し、大臣官房審議官として環境問題等を担当。 財務省大臣官房参事官、内閣官房TPP等政府対策本部審議官等を経て、2021年にシニアエグゼクティブコンサルタントとして三菱ケミカルホールディングス 経営戦略部門に入社。 石化炭素ビジネスグループ／ベーシックマテリアルズビジネスグループにおいて企画戦略本部長を務め、2024年より三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員チーフサステナビリティオフィサーに就任。 ジョージア・インステテュート・オブ・テクノロジー 国際関係大学院 国際公共政策修士。

※ パネルディスカッションに登壇

elea Professor of Social Innovation and Dean of the IMD EMBA program

ソーシャル・イノベーション、インパクト投資、サステナブル・ファイナンスを専門とするマクロ経済学者・政治学者であり、学術機関、多国籍企業、国際機関などで20年以上にわたって研究、教育、コンサルティングに従事。 IMDに着任する前は、ペルーのPacifico大学でサステナブル・アントレプレナーシップとソーシャル・インクルージョン学部の教授兼学部長を務め、ビジネススクールの学長としてもMBAとEMBA、そしてマーケティング、ファイナンス、オペレーションとサプライチェーン、社会的投資、人材と組織の5つの専門修士プログラムを指導。

※ パネルディスカッションに登壇

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ理事、 株式会社Stem for Leaves代表取締役

多様な業種における全社戦略・部門別戦略の策定・実行支援のほか、新規事業立ち上げ支援、M&A、企業再生等の実績を有する。公共セクターに対しては、調査研究や事業実施支援の経験を有し、近年はインパクトの可視化やデータ活用に注力している。PwCコンサルティング、ペイン・アンド・カンパニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人を経て(株)Stem for Leavesを設立し、代表取締役役に就任、現在に至る。多摩大学社会的投資研究所

客員研究員。早稲田大学政治経済学部卒業。ワシントン大学行政経営大学院修士課程修了(MPA)

5月 15日(水)

11:30 - 12:40

有 料 セッション

日英
同時通訳

【スペシャル・セッション①】

コレクティブインパクトで 目指す新たな資本主義「共助資本主義」の実現

社会的インパクト創出を経済活動のムーブメントとするためには、企業、行政、非営利法人など多様なステークホルダーが協働する必要があります。2023年4月に、経済同友会が発表した提言『共助資本主義～企業のパーパスと「共感」を起点とした「アニマル・スピリッツ」の覚醒～』では、民間企業が社会課題の解決に向けて「共助」の取組みに参画し、新たな需要やイノベーションの創出とwell-beingを実現する経済社会を提唱しています。本セッションでは、経済同友会、インパクトスタートアップ協会、新公益連盟の代表を招聘し、経済合理性限界曲線を超越する共助資本主義の実現に向けたマルチセクターによる社会課題解決について紹介します。



高島 宏平 氏

Speaker

オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長

東京大学大学院工学系研究科情報工学専攻修了後、マッキンゼー日本支社勤務を経て2000年にオイシックス株式会社を設立。2016年、買い物難民への移動スーパー「とくし丸」を子会社化。2017年には「大地を守る会」、翌2018年には「らでいっしゅぼーや」との経営統合を実現し、食材宅配3ブランドを擁するオイシックス・ラ・大地株式会社代表取締役社長に就任。公益社団法人経済同友会では、2021年に副代表幹事に就任し、広報戦略検討委員会、共助資本主義の実現委員会、政治・行政改革委員会の委員長を務める。

NPO法人クロスフィールズ 代表理事、NPO法人新公益連盟 理事



小沼 大地 氏

Speaker

青年海外協力隊としてシリアで活動した後、2008年マッキンゼー・アンド・カンパニーに入社。2011年5月NPO法人クロスフィールズ創業。ビジネスパーソンが新興国で社会課題解決に取り組む「留職」など様々な事業を展開。2011年に世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Shaper、2016年にハーバード・ビジネス・レビュー「未来をつくるJ-40経営者20人」に選出される。2016年から新公益連盟の理事を務め、2024年秋には共同代表に就任予定。著書『働く意義のつけ方ー仕事を「志事」にする流儀』(ダイヤモンド社)がある。一橋大学社会学部・同大学院社会学研究科修了。

READYFOR株式会社 代表取締役CEO、インパクトスタートアップ協会 代表理事

1987年生まれ。慶應義塾大学経済学部、同大学院メディアデザイン研究科(MD)卒業。2011年3月29日に日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」をスタート。2014年に株式会社化し、代表取締役CEOに就任。World Economic Forumグローバルシェイパーズ2011に選出、日本人史上最年少でダボス会議に参加。「人生00年時代構想会議」「未来投資会議」等の民間議員に選出、現在は内閣官房「新しい資本主義実現会議」の民間議員を務める。インパクトスタートアップ協会では、主に提言分野を担当。

一般財団法人社会変革推進財団 専務理事

1991年に日本財団に就職。阪神淡路大震災後の復興支援活動、障害者移動困難の解消NPO支援センターの強化といった市民活動のテーマに取り組む。その後、企画部門、組織開発や人事を担当。東日本大震災後は、財団内に立ち上げられたタスクフォースのリーダーの任につき、社会的起業や行政と連携した数多くの支援事業に携わる。2015年より、日本におけるインパクト投資の普及、政府と協働での子供の貧困対策に従事。2017年、当財団を設立し、経営に携わっています。経営学修士。他にグロービス経営大学院講師や公益財団法人ベネッセこども基金理事なども務めている。



青柳 光昌

Moderator

5月15日(水)

日英
同時通訳

13:30 - 14:00

無料 セッション

【基調講演②】

チャイルドレンズ投資とは ～将来世代を最優先に考える 投資フレームワークの紹介

昨年、広範な投資関係機関との協力をもとに、国連児童基金（UNICEF）が開発したチャイルド・レンズ投資フレームワーク（CLIF）。CLIFは教育や保健といった子どもに深い関連のある分野への投資はもちろんのこと、広い分野の投資においても常に「子どもの利益を最優先にといった視点の投資」を考えるものです。子ども中心の政策策定は、UNICEF始め国際機関や各国政府で進められていますが、これを金融・投資戦略に活用するためのフレームワークに仕立てたという意味で画期的です。フレームワークの概要とインパクトエコノミーへの貢献、日本の広範な関係者がいかに参画できるか、ロスタミ氏が紹介します。

※参考: https://simi.or.jp/grc/unicef_cli/



Speaker

Alexander Rostami 氏

Chief and Founder of UNICEF's Global Innovative Finance Hub in Helsinki

2021年から、ヘルシンキに拠点を置くユニセフのグローバル・イノベティブ・ファイナンス・ハブの事務局長兼チーフとして、子どもたちのための革新的な資金調達ソリューションの推進に注力し、投資において子どもの利益を最優先に考える先駆的なフレームワークであるチャイルド・レンズ投資などのプロジェクトに携わっている。銀行、金融、国際開発の分野で20年以上の専門知識を持ち、民間および公的セクターで複数の職務を歴任。



Moderator

今田 克司

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。現在、日本評価学会副会長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー。金融庁GSG共催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー等歴任。B Lab (B Corp 認証を司る米国非営利団体) Regional Standards Advisory Group - Asia 委員、Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員。

5月 15日(水)

14:00 - 14:30

日英
同時通訳

無 料 セッション

【基調講演③】

インパクト投資における インパクト・マネジメントの 現状と課題～BlueMark の最新 ベンチマークレポートをもとに

2020年に事業を開始した BlueMarkでは、インパクト投資の第三者検証サービスを中心事業としながら、インパクト測定・マネジメント (IMM) の業界標準を世界に広げる取り組みを進めています。この基調講演では、5回目の発表となる年次報告書、「メイキング・ザ・マーク」のグローバルリリースを行い、インパクト投資家の IMMの取り組みが進んでいる点や改善点の分析を伝え、投資家のインパクトエコノミーへの貢献に向けた動向を探ります。

※参考(昨年のレポート): <https://simi.or.jp/grc/投資家が行うインパクトマネジメントのベンチマ>



Speaker

Christina Leijonhufvud 氏

BlueMark CEO

ウォール街で上級職を務めた実績を持つインパクト投資分野での著名なリーダー2020年、コンサルティング会社Tidelineからスピンアウトした新しいインパクト検証事業であるBlueMarkのCEOに着任。BlueMarkチームを監督し、さまざまな投資家タイプやアセットクラスで数多くの検証業務を直接指揮している。また、Tidelineの共同設立者兼マネージング・パートナーとして、主要な財団、世界最大級の金融仲介機関、ファミリー・オフィスや非営利団体とのコンサルティング業務の多くを主導してきた。現在、CASE i3、Impact Assets 50審査委員会、BRAC USA諮問委員会の委員を務めるほか、BRAC USAやその他のいくつかの非営利団体の理事を務めている。



Moderator

今田 克司

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。現在、日本評価学会副会長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー。金融庁GSG共催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー等歴任B Lab (B Corp 認証を司る米国非営利団体) Regional Standards Advisory Group - Asia 委員、Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員。

5月15日(水)

日英
同時通訳

14:50 - 15:50

有料セッション

【スペシャル・セッション②】

本質的な社会課題解決を促す「システムチェンジ投資」とは

もっとも深刻かつ複雑な社会問題(Wicked Problem)にアプローチし、持続可能な社会を実現するためにはどうすればいいのか。社会的インパクトを創出するだけでなく、社会システム全体の変容を促し、根本的な課題解決につなげる新たな投資の概念「システムチェンジ投資」。欧米諸国ではシステムチェンジ投資についての議論がはじまっています。本セッションでは、グローバルの動向や事例から学び、日本発のシステムチェンジ投資の可能性を考察していきます。



Speaker

Dominic Hofstetter 氏

TransCap Initiative, Executive Director

TransCap Initiativeのエグゼクティブ・ディレクターであるDominic Hofstetterは、システム変革に資金を提供するための新しい投資ロジックであるシステム・インベストメントの分野を構築することを使命としている。欧州最大の気候変動イノベーション・イニシアチブであるIT Climate-KICの資本・投資担当ディレクターとして、設立間もない同組織の投資機能の構築に携わった際に、TransCap Initiativeを立ち上げ、事業を展開。2015年にEIT Climate-KICに入社する以前は、再生可能エネルギー新興企業lectrochaeaで起業家として、Hudson Clean Energy Partnersではプライベート・エクイティ投資家として、またクレディ・スイスの機関投資家向け資産運用部門ではファイナンスの専門家として従事。シカゴ大学ブース・スクール・オブ・ビジネスでMBA、オックスフォード大学環境変動研究所で修士号を取得。



Speaker

加藤 有也

一般財団法人社会変革推進財団 事業部 インパクト・オフィサー

総合出版社にて海外事業や国内外関連会社の企画に従事した後、コーポレート・ベンチャーキャピタルの設立・運営およびベンチャー企業との資本業務提携に携わる。当財団では、インパクト投資やインパクト・スタートアップ支援の先行事例作りと実践的モデルの開発を目指し、はたばUND(日本インパクト投資2号ファンド)の運営、インパクト測定・マネジメントのモデル策定と普及、新たなインパクト投資事業の開発などを担当している。経営学修士



Moderator

川端 元維

一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・エコノミー・ラボ インパクト・カタリスト

大学卒業後、カナダのソーシャルベンチャーでインターンを経験。帰国後、自動車部品メーカーの法人営業として欧州・アジア市場等を担当。全寮制の中高一貫校に出向し国際キャリア教育に携わった後に転職、教育系企業での新規事業開発と米国IPOの日本担当を兼務。2015年に「人・組織・社会の変容デザイン事務所innovate with」を設立。海外の財団や投資家と日本の社会起業家をつなぎ、インパクト戦略策定・実行支援・評価を行いつつ、日本各地で起業家精神を育むエコシステムづくりに携わる。2023年、世界の社会変革の知見を日本の現場につなぐために当財団インパクト・エコノミー・ラボに参画。イギリスの政治経済大学院でソーシャルビジネスとアントレプレナーシップの修士号取得。

5月15日(水)

日英
同時通訳

16:10 - 17:00

無料 セッション

【協賛セッション①】

インパクトエコノミーにおける金融の役割

当セッションでは、インパクトエコノミーが実現するシステム・チェンジにおいて、金融が果たすべき役割について、インパクトエコノミーのリーダーの方々と議論します。「インパクトの創出」と「収益の創出」の好循環において、金融機関に期待することや、望むインベストメントチェーンの在り方についての議論を起点に、経済システムをアップグレードしていくためのインサイトを提供します。

【協賛：株式会社みずほフィナンシャルグループ】



渋澤 健

Speaker

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役、コモンズ投信株式会社 取締役会長、株式会社and Capital 代表取締役CEO、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)議長の特別顧問およびIFVI理事、GSG国内諮問委員会の委員長、インドのベンチャーキャピタルChiratae Venturesアジア・アドバイザリーボードのメンバーに就任。さらに近年では、Triple I for GH: Impact Investment Initiative for Global Health(グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアティブ)の共同議長に就任。経済同友会幹事およびグローバルサウス・アフリカ委員会委員長、岸田政権「新しい資本主義実現会議」等、多数の政府系委員会の委員、東京大学総長室アドバイザー、UNDP(国連開発計画)SDG Impact Steering Group委員、等。



水口 剛

Speaker

公立大学法人高崎経済大学学長、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

筑波大学卒。ニチメン(株)、英和監査法人などの勤務を経て、2008年、高崎経済大学経済学部教授、2021年より現職。博士(経営学、明治大学)。専門は、非財務情報開示、責任投資(ESG投資)など。市場メカニズムを通して持続可能な社会を実現するために、ESG(環境・社会・コーポレートガバナンス)の要素を投資意思決定に統合する責任投資を日本で定着させることを目指して研究・提言している。環境省「グリーンファイナンスに関する検討会座長、金融庁「サステナブルファイナンス有識者会議」座長、「インパクト投資等検討会」副座長、「インパクトコンソーシアム」会長などを歴任。主な著書に『責任ある投資—資金の流れで未来を変える』(岩波書店)、『ESG投資—新しい資本主義のかたち』(日本経済新聞出版社)など。



米良 はるか 氏

Speaker

READYFOR株式会社 代表取締役CEO、インパクトスタートアップ協会 代表理事

1987年生まれ。慶應義塾大学経済学部、同大学院メディアデザイン研究科(KMD)卒業。2011年3月29日に日本初・国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」をスタート。2014年に株式会社化し、代表取締役CEOに就任。World Economic Forumグローバルシェイパーズ2011に選出、日本人史上最年少でダボス会議に参加。「人生100年時代構想会議」「未来投資会議」等の民間議員に選出、現在は内閣官房「新しい資本主義実現会議」の民間議員を務める。インパクトスタートアップ協会では、主に提言分野を担当。



末吉 光太郎 氏

Moderator

株式会社みずほフィナンシャルグループ サステナブルビジネス部 副部長

みずほ銀行入行後、大企業法人営業、国際業務・国内法人業務企画部門等を経て法人向けサステナブルビジネス企画を担当。22年9月からサステナブルビジネス部 副部長に着任。GSG国内諮問委員会 委員、インパクト志向金融宣言 運営委員、等。

5月 15日(水)

日英
同時通訳

17:10 - 18:10

無 料 セッション

【協賛セッション②】

「インパクトの創出」と「収益の創出」の好循環を実現するインドのインパクト企業に迫る！

世界最大と言われる女性自営労働者組合であるインドの SEWAから派生したインパクト企業、SITARA(シタラ)の実態に渋谷健氏が迫ります。SITARAは「インパクトの創出」と「収益の創出」の好循環を実現している、インドの低所得女性のために住宅ローンを提供する金融サービス企業で、最近シリーズ Eの資金調達を実現した企業です。金融サービスの顧客として見向きもされない低所得、担保になる資産も信用情報もない女性たちに、人生の資産となりうる住宅を所有する、という夢を形にし、彼女たちの人生に甚大なインパクトをもたらしている。SITARAはいったいどのようにどんどん資金調達をしながら「収益」と「インパクト」創出の好循環を生み出していくのか？セッションでは、SITARA CEOのシュルティ ゴンザルベス氏を招いて、彼女のインパクトビジネスへの熱い思いを、インパクトテーマ設定、創出するインパクトの測定方法、情報開示、投資家たちとのエンゲージメントなどに着目しながら、渋谷健氏がインタビュー方式で丁寧に紐解いていきます。

【共催：笹川平和財団】



Speaker

Shruti Gonsalves 氏



Speaker

渋谷 健



Moderator

松野 文香 氏

SEWA Grih Rin Limited (シタラ) 最高経営責任者

主にマイクロファイナンス分野で、プロジェクトファイナンス、評価、監視および評価システム、開発融資に20年以上携わり、政府省庁、金融機関、多国間および二国間機関と協力してきた幅広い経験を持つ。都市部と農村部において、低所得世帯、特に非公式セクターで働く女性たちが、持続可能な生計を立てられるよう革新的金融サービスの確立に取り組んできた。

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役、コモンズ投信株式会社 取締役会長、株式会社and Capital 代表取締役CEO、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)議長の特別顧問およびFVI理事、GSG国内諮問委員会の委員長、インドのベンチャーキャピタルChiratae Venturesアジア・アドバイザリーボードのメンバーに就任。さらに近年では、Triple I for GH: Impact Investment Initiative for Global Health(グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアチブ)の共同議長に就任。経済同友会幹事およびグローバルサウス・アフリカ委員会委員長、岸田政権「新しい資本主義実現会議」等、多数の政府系委員会の委員、東京大学総長室アドバイザー、UNDP(国連開発計画)SDG Impact Steering Group 委員、等。

笹川平和財団 アジア・イスラム事業グループ 社会イノベーションチーム チームリーダー兼特任グループ長

大学卒業後、日本放送協会(NHK)に入局、番組制作ディレクターとして島根県松江局に配属。退局後アメリカの大学院に留学。その後発展途上国の女性のエンパワメントに携わるために国連開発計画(UNDP)に入職。UNDPバングラデシュで農村開発、社会的弱者のエンパワメントを支援する。バングラデシュでは、グラミン銀行のマイクロファイナンスに出会い、金融(農村銀行)を通じた女性の経済的エンパワメントに従事。その後国際労働機関(ILO)の本部とアジア太平洋局勤務で児童労働撤廃プログラム(PEC)に従事。その後blankを経てJICAの専門家としてタイ事務所で勤務。2019年から現職。

5月 16日(木)

9:30 - 10:20

有 料 セッション

【スペシャル・セッション③】

パーパス経営と社会的インパクト： 持続可能なビジネスの新たな可能性

本セッションでは、「パーパス経営とインパクト」に焦点を当て、企業が利益追求だけでなく社会的使命や価値を追求する重要性について触れていきます。また実際の企業事例から、パーパス経営を実践することで社会的・環境的なインパクトの創出と企業価値の向上、また持続可能なビジネスモデル構築につながっているのかを紹介し、未来を切り拓くビジネスの新たな可能性について参加者の皆さんと一緒に考えていきます。



入山 章栄 氏

Speaker

早稲田大学大学院経営管理研究科、早稲田大学ビジネススクール 教授

慶應義塾大学卒業、同大学院経済学研究科修士課程修了。三菱総合研究所でコンサルティング業務に従事後、2008年米ピッツバーグ大学経営大学院よりPh.D.(博士号)取得。同年より米ニューヨーク州立大学バッファロー校ビジネススクール助教授。2013年より早稲田大学大学院早稲田大学ビジネススクール准教授。2019年より教授。専門は経営学。国際的な主要経営学術誌に論文を多数発表。メディアでも活発な情報発信を行っている



鴨崎 貴泰

Moderator

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 専務理事
認定NPO法人日本ファンドレイジング協会 常務理事/社会的インパクトセンター長
長野県立大学客員准教授

グロービス経営大学院卒業(MBA)。環境コンサルティング会社を経て、2009年公益財団法人信託資本財団に設立時より参画し事務局長を務め、社会起業家に対する無利子・無担保融資事業やNPOのファンドレイジング支援事業を行う。
2014年NPO法人日本ファンドレイジング協会へ入職し事務局長を務め2019年からは常務理事も兼務。2020年5月からは合同会社シッカイヤを創業して代表に就任。
SIB(ソーシャル・インパクト・ボンド)の日本導入や社会的インパクト評価・マネジメントの推進などに従事。

5月 16日(木)

10:30 - 11:40

有 料 セッション

【スペシャル・セッション④】

Beyond Impact Investment: インパクトエコノミー実現の2ndステージへ

~GSG Japan NAB設立10周年に、次の10年戦略を構想する

2014年7月に設立され、今年で発足 10周年を迎えるGSG国内諮問委員会。日本国内におけるインパクト投資市場規模は、2023年5月時点で5兆8,480億円に到達しこの10年間で目覚ましい成長を遂げています。本委員会では、日本におけるインパクト投資の普及拡大を常にリードしてきました。10年の活動の軌跡とインパクト投資市場の成長を振り返り、さらなるエコシステムとインパクトエコノミー拡大のためのこれからの展望を紹介します。

【共催: GSG国内諮問委員会】



渋澤 健

Speaker



須藤 奈応 氏

Speaker



塩田 裕子 氏

Speaker



鵜尾 雅隆 氏

Moderator

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役、コモンズ投信株式会社取締役会長、株式会社and Capital 代表取締役CEO、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)議長の特別顧問および IFVI理事、GSG国内諮問委員会の委員長、インドのベンチャーキャピタル Chiratae Venturesアジア・アドバイザリーボードのメンバーに就任。さらに近年では、Triple I for GH: Impact Investment Initiative for Global Health(グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアチブ)の共同議長に就任。経済同友会幹事およびグローバルサウス・アフリカ委員会委員長、岸田政権「新しい資本主義実現会議」等、多数の政府系委員会の委員、東京大学総長室アドバイザー、UNDP(国連開発計画)SDG Impact Steering Group委員、等。

インパクト・フロンティアーズディレクター

Impact Frontiersのディレクターとして、機関投資家向けの研修開発や各種環境整備プロジェクトを担当。日本取引所グループにて15年間勤務。Impact Investment Exchange Asiaでのインターンシップをきっかけに、インパクト投資に興味を持つ。以来、日本におけるインパクト投資の推進に取り組むGSG国内諮問委員会に積極的に参画。30以上の機関投資家とのワーキンググループのファシリテーターを務め、主なGSGIによる出版物に「社会的インパクト時代の資本市場のあり方」、「インパクト測定・マネジメントに係る指針」、「インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック」などがある。2021年、初の著書「インパクト投資入門」を日本経済新聞社より出版。慶應イノベーションイニシアチブ、アドバイザー。

丸井グループ執行役員 サステナビリティ部兼ESG推進部 部長

1997年/丸井グループ入社
1999年/ (株)丸井 営業企画部にてプレス担当
2004年/ (株)エムクリエイツ MDディレクション担当
2005年/ (株)丸井で商品企画・販売企画を担当
2006年/ (株)丸井 ニーズマーケティング部
2013年/ (株)丸井 川崎店統括マネジャー 店次長
2014年/ (株)丸井 博多ニーズマーケティング課長にて博多マルイの店づくりを担当
2016年/ (株)丸井グループ CSR推進部課長のち ESG推進部/サステナビリティ部 課長
2019年/ (株)丸井グループ 新規事業 (現株)OKOSにてサステナブルブランド KESOUローンチ
2022年/ (株)丸井グループ サステナビリティ部長、ESG推進部長(現任)
2023年/ (株)丸井グループ 執行役員(現任)

認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会代表理事

JICA(独立行政法人国際協力機構)外務省国際協力局での17年の勤務を経て、日本ファンドレイジング協会を創業し現在代表理事。日本ファンドレイジング協会は、ファンドレイザーの育成や寄付教育を推進する団体で現在約2500人の会員が在籍。社会問題解決を目指す財団・企業600法人(アジア最大のネットワーク組織)Asian Venture Philanthropy Network(AVPN)の日本代表事務所も兼ねている。G8ロンドンサミットで誕生した社会的インパクト投資タスクフォース(現在は世界39ヶ国に拡大)GSG Impact: Global Steering Group for Impact Investmentの日本諮問委員会、副委員長。学校法人至善館 副学長兼インパクトエコノミーセンター所長。公益財団法人PwC財団 助成金選考委員長。慶応義塾商学部卒、法政大学大学院経済学修士取得。米国Case Western Reserve University非営利組織修士取得(経営学部長賞受賞) インディアナ大学 The Fundraising School修了。著書に「寄付をしてみよう、と思ったら読む本(渋澤健・鵜尾雅隆共著。日経新聞)」「ファンドレイジングが社会を変え 11(単著。三一書房)」「Global Fundraising(共著。Wiley)」「寄付白書(共著。JFRA)」「社会的インパクトとは何か(監訳。英治出版)」等

5月 16日(木)

11:50 - 12:40

有 料 セッション

【通常セッション①】

上場するインパクト企業：インパクト拡大と事業成長を実現するための経営と資本市場との向き合い方

資本市場に上場し、社会環境へのインパクトの創出と事業成長を加速させ、持続的な企業価値の向上を目指すインパクト企業の存在が注目され始めています。しかし、上場を経ると、インパクト企業といえども多様な投資家と対峙せねばなりません。そのような中で、企業は、いかにインパクト創出の観点を経営マネジメントの中に根付かせるのか、インパクトを自社の価値としていかに投資家に効果的に情報を開示し対話を図るのか、そしてより大きな成長を目指すインパクト企業を輩出し続ける資本市場のあり方を議論をします。



白石 智哉 氏

Speaker



大野 美希子 氏

Speaker



久納 裕治 氏

Speaker



岩谷 渉平 氏

Speaker



菅野 文美

Moderator

フロネシス・パートナーズ(株)代表取締役

1980年代から日本、米国シリコンバレー、アジア各国でベンチャーキャピタル投資の経験を積んだ後、1999年にジャフコグループ(株)の事業投資本部長に就任し日本の草分けとしてプライベート・エクイティ投資を開始した。2005年に欧州系プライベート・エクイティ投資会社ペルミラの日本代表、2014年にフロネシス・パートナーズ(株)の代表取締役に就任し一貫してプライベート・エクイティ投資に携わる。また(一社)ソーシャル・インベストメント・パートナーズを設立し社会的事業への支援活動も行うとともに、上場企業の社外取締役も務めている。1986年一橋大学法学部卒業
GSGインパクト投資国内諮問委員 / 内閣府休眠預金等活用審議会専門委員 / セントケア・ホールディング(株)社外取締役 / (株)エンビプロ・ホールディングス 社外取締役

株式会社リクルートホールディングスディレクター、グローバルサステナビリティ開示規制ESG対話、グループDEISustainability Transformation / Investor Relations

2018年にリクルートホールディングスに入社。以来、グローバル資本市場とのサステナビリティ観点における対話・開示を牽引。現在、機関投資家とのESG/インパクト対話に加え、全社横断のサステナビリティ情報開示プロジェクト、グループDEI (Diversity, Equity & Inclusion) 推進をリード。英国滞在を経て、前職では大手通信企業においてInvestor Relations、途上国における国際 M&A・投資先モニタリング、日本・フランスにおけるマーケティング等に従事。日本証券アナリスト協会検定会員。

株式会社CureApp コーポレート統括取締役/ CFO

早稲田大学商学部卒。公認会計士。
大学在学中に公認会計士2次試験に合格し、新日本監査法人(現:新日本有限責任監査法人)金融部で、証券やVC等を中心に金融機関向け監査に従事。2010年より、経営コンサルティング、M&A支援を行うフロンティア・マネジメント(株)に参画。国内中堅製造業向けを中心に、多数のプロジェクトに従事。2018年よりCureAppに参画、数回の資金調達、サステナビリティ経営の推進をはじめCFOとしてコーポレート業務全般を所管する。

アセットマネジメントOne 株式会社 株式運用グループファンドマネジャー

1998年東京大学経済学部卒業。株式会社日本興業銀行に入行し、主に財務・主計業務を担当。2004年UBS Global Asset Managementを経て、2008年よりDIAMアセットマネジメント株式会社(現アセットマネジメントOne 株式会社)入社。主に、ポストIPOの成長企業投資に取り組む。あわせて、運用フロントのデジタル化と並びオルタナティブデータを活用した調査、分析、運用手法の研究に取り組む。Refinitiv Lipper Fund Awards 2023 Japan (株式型 日本 中小型株(10年)最優秀ファンド)、R&I ファンド大賞2022(投資信託10年/国内中小型株式 優秀ファンド賞)他。日本証券業協会「公開価格の設定プロセスのあり方等に関するワーキンググループ」委員、経済産業省「研究開発型スタートアップの無形資産価値の可視化に係る課題検討ワーキンググループ」座長他。

一般財団法人社会変革推進財団インパクト・エコノミー・ラボ所長

大学卒業後、台湾留学を経てアメリカの大学院で国際開発を専攻。国際NGO職員として中国農村部で教育やインパクト評価事業に従事。帰国後、ビジネスを通じた社会課題解決に取り組むため、外資系銀行でのリスクマネジメント業務を経て、シンクタンクで日本企業による新興国インパクトビジネスの立ち上げ支援、インパクト投資の研究、ESGリサーチを担当。2017年7月に当財団に参画し、インパクトVCファンド「はたらくFUND」にパートナーとして従事する他、Impact Economy Labを通じて、インパクト・エコノミーへの移行に向けた、グローバルな先駆者や業界団体との連携、実践知の抽出や調査研究、GSG等の国内におけるコミュニティとの協働、省庁との連携等をリードしている。

5月16日(木)
11:50 - 12:40

日英
同時通訳

有料セッション

【通常セッション②】

高齢化するアジアにおけるインパクト創出に向けたフィランソロピーと投資の触媒的な役割

アジアにおける65歳以上人口は2060年までに12億人を超え、世界の10人に1人を占めると言われています。急激に進む高齢化への対応がアジア共通のアジェンダとなる中で、いかに健康寿命の質を向上させ、全ての人のウェルビーイングを高められるのでしょうか。

本セッションでは、投資とフィランソロピーで高齢化社会における課題に取り組む日本・台湾・中国・シンガポール各国から、豪華パネリストが集結。日本の地域にこだわりこれまで多くの介護やヘルス事業にベンチャー投資を行う渡辺麗斗氏、台湾のペンション・ファンド(年金基金)で高齢社会特有の課題に取り組むFrancine Wu氏、上海の大手インパクト投資VC創設者であると同時に、フィランソロピーの観点からHerodad基金を立ち上げ、ビジネスと慈善活動の両分野における先駆者であるHaoling Zhan氏、そしてシンガポール最大の財団であるTemasek財団で多民族・都市社会におけるコミュニティの育成とケアの実現に取り組むWoon Saet Nyoon氏より、それぞれの国や地域における高齢化社会の課題とそれらの解決に向けた事例から、アジアにおけるインパクト投資およびフィランソロピーのあり方と連携によって描かれる未来と可能性を探ります。

＜AVPNについて＞AVPNはシンガポールが本部であり、戦略的フィランソロピーとインパクト投資の推進による社会課題の加速度的解決を目指すアジア最大のネットワークです。現在33の国と地域から財団、金融機関、企業などインパクトの創出を目指す600以上の資金提供者がメンバーとして参加しており、アジアにおいてインパクト創出に向けた資金循環のエコシステムの構築に取り組んでいます。<https://avpn.asia/>

【共催: AVPN】



渡辺 麗斗 氏
Speaker



Francine Wu 氏
Speaker



Haoling Zhan 氏
Speaker



Woon Saet Nyoon 氏
Speaker



伊藤 麻里子 氏
Moderator

ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 代表取締役パートナー

2012年の株式会社ドーガン参画以降、一貫して地域にこだわったベンチャー投資を担当。2017年スピンオフする形で当社を設立。新産業が生み出す雇用の多様性によって地場経済の健全な新陳代謝が促されるという仮説のもと、VC投資という金融手法をはじめとしたサービスを提供している。これまで30社超のシード期の企業に投資をし、その半数以上はサービスの立ち上げ前のタイミング。コワーキングスペース「OnRAMP」の立ち上げや「福岡市スタートアップカフェ」の設立などにも関与し、広く起業支援という経済を根付かせる活動を行う。静岡県出身。

Chairperson, Pension Fund Association, R.O.C.

Francine Wuは現在、中華民国年金基金協会会長を務める。以前はシュローダー・インベストメント・マネジメント(台湾)に27年間在籍し、さまざまな要職を歴任。2001年から2019年までは台湾のカントリー・ヘッドとして台湾事業を立ち上げ、同事業を完全な資産運用事業体まで飛躍的に成長させた。2020年から2022年にかけて、シュローダー・インベストメント・マネジメント(台湾)の会長。

Co-Founder of Heroad Investments, Founder of Heroad Foundation

Haoling ZhanはHeroad(フィランソロピー)基金の創設者であり、インパクト投資ベンチャーキャピタルであるHeroad Investmentsの共同創設者でもある。その卓越した業績が認められ、2023年にはフォーチュン誌の「中国で最も影響力のあるビジネスウーマン」、2023年にはチャイナブリッジ誌の「中国で最も優れた女性投資家トップ100」に選ばれた。

国内外でソーシャル・イノベーションの研究に専念してきた同氏は、企業経営と金融投資の豊富な経験を兼ね備えている。S-ESG(シヤン・環境・社会・ガバナンス)企業の社会的価値開発モデルのパイオニアとして知られる。Heroadインベストメンツでは、投資決定委員会と社会価値委員会の両方を設立し、デュアルトラック投資アプローチを確立した。この革新的な仕組みは、企業の倫理的ガバナンスを支援し、社会的リスクを軽減し、積極的な社会的価値の創造に貢献することを目的としている。先見のりリーダーシップと、責任ある投資を通じて社会開発を推進するというコミットメントにより、彼女はビジネスと慈善活動の分野における先駆者となった。

Head, Community Networks and Partnerships, Temasek Foundation

Woon Saet Nyoon氏は、2009年にTemasek Caresの創設ジェネラル・マネージャーとして入社し、2016年にTemasek財団Caresのチーフ・エグゼクティブに就任した。現在はテマセク財団のコミュニティ・ネットワークとパートナーシップの責任者を務める。Temasek CaresとTemasek財団Caresに在職中、Woon氏とWoon氏のチームは社会・医療分野で数多くのケアモデルを試験的に導入した。Temasek財団に入る前は、全国社会サービス協議会(NCSS)に8年以上勤務し、共同募金会を指揮した。

AVPN マネージャー

奈良県出身。某大手化粧品メーカーで営業経験を積んだ後、国連大学にて研究資金調達サポート業務等に従事。日本音楽財団にてクラシック音楽事業の企画・運営・資金調達・新規事業企画を担当。富裕層の資産管理会社にてプロジェクト・マネージャーを務めた後、日本財団にてファンドレイジング業務に従事。2023年8月より現職。認定ファンドレイザー、米国認定フィランソロピー・アドバイザー(CAP®)。

5月 16日(木)

13:20 - 14:30

無 料 セッション

【協賛セッション③】

ショートピッチセッション： インパクト創出への取り組み

協賛各社より、様々な領域で新たなインパクト創出への
取り組みを広げる事例をご紹介します。

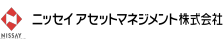
(五十音順)



Speaker



Speaker



Speaker



Speaker



Moderator

幸地 正樹

インパクトサークル株式会社様

インパクトサークルは、日本およびアジア新興国においてインパクトファイナンス事業を運営しています。その中で創出される最終受益者単位でのインパクトデータ収集を通じ、投資リターンの一部として認識されるためのインパクト可視化手法の開発に取り組んでいます。その事例の紹介と共に、事業者の製品やサービスが創出するインパクトを可視化することによりもたらされる、新たな機会創出に向けた取り組みを紹介します。

中央日本土地建物株式会社様

現在、外堀通りの虎ノ門駅付近にて再開発事業が進行しており、弊社は主幹事を務めております。本事業のコンセプトは、人・経済・文化の情報が行き交う江戸の交流拠点であった虎ノ門の歴史を踏襲し、「INCLUSIVE GATE」と設定しました。本事業により竣工するビルの2階から5階には、政治と経済の縁が交わる立地の個性を活かし、「門」に「人」が集まることで「閃き」が生まれるように「官」と「民」の垣根を超えて知恵を持ち寄り、よりよい次世代に向けたフラットな交流・議論ができる「共創の場」を開設予定としております。本セッションでは、当該施設整備に向けた官民共創による社会的インパクト活性化に向けた取り組み状況についてご紹介します。

ニッセイアセットマネジメント株式会社様

ニッセイアセットマネジメントでは、15年以上にわたって培ってきたサステナブル投資の知見を応用し、近年、インパクト投資に関する取り組みに力をいれています。本セッションでは、気候変動や自然資本に関する課題解決への貢献に向けて、企業活動の改善を重視する国内株式、外国株式に投資するトランジションファンドを運用するチーフ・ポートフォリオ・マネジャー井上より、上場株式投資における、企業へのエンゲージメントや、運用リターンとの両立への取り組みなど運用現場の知見や活動を紹介します。

※当社商品のリスクと費用等についてはこちらをご覧ください：<https://www.nam.co.jp/institutional/lineup.html>

※当社サイトご利用における留意事項はこちらをご覧ください：<https://www.nam.co.jp/terms/index.html>

農林中央金庫様

農林中央金庫は農業協同組合(JA)、漁業協同組合(JF)、森林組合(JForest)を出資者とする金融機関で、出資金や会員の預貯金を投資で運用する事業、農林水産事業者や一般事業者向けの法人融資事業、JAバンク・JFバンクのリテール金融事業の主に3事業を実施しています。農林水産業を基盤とする金融機関として、サステナビリティ課題解決自体が組織のマテリアリティとパーパスに直結するとの認識のもと、投融資におけるインパクト・ファイナンスだけでなく、地域における農林水産業の活性化に資する事業連携の仲介やコンサルティング業務にも取り組んでいます。そのような地域における取組のインパクト評価を実施した事例について共有させていただき、組織として今後同様の事例を積み上げていく仕組み作りによって、農林中央金庫として意図するインパクト創出を目指していきます。

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ理事、ケイスリー株式会社代表取締役社長

PwCコンサルティングで官公庁向け戦略策定等の経験を経て、2016年ケイスリー創業。行政、投資家や財団、企業やNPOなど多様な団体と協働し、インパクト投資やインパクト測定・マネジメント(IMM)、成果連動型官民連携事業(PFS/SIB)の導入支援など、社会課題解決を軸にしたコンサルティングサービスを提供する。その他、琉球大学非常勤講師(専門：インパクト投資/SIB)、内閣府PFSアクションプラン検討会議民間有識者、内閣府市町村施策支援アドバイザー等を兼務。沖縄県中頭郡読谷村在住。

5月 16日(木)

13:40 - 14:30

有 料 セッション

【通常セッション③】

ソーシャルインパクトの「呼び水」 ～日本における触媒的資本の活用～

欧米を中心としたソーシャルインパクトの世界で実践知の集積が進んでいる「カタリティック・キャピタル(触媒的資本)」の概念は、インパクトスタートアップや非営利事業のソーシャルインパクトの拡大やその前提としての財務的成長の「呼び水」になるリスクマネーとして整理が進んでいます。本セッションでは、海外のカタリティック・キャピタルにまつわる議論や実践を参照しつつも、日本のソーシャルセクターにおいて、すでに引き始めているソーシャルビジネスおよび非営利団体への「触媒的資本」に相当する資金を提供している実践者の方々をお招きし、「カタリティック・キャピタル」の概念をどのように社会へのインパクトの拡大と深化に活用できるかのヒントを探します。



Speaker

嶋中 健太 氏

みてね基金

2005年に株式会社イー・マーキュリー(現在の株式会社MIXI)に入社。SNS「mixi」や創業事業の求人情報サイトの事業責任者、新規事業の立ち上げ、カスタマーサポート、障害者雇用など、幅広い業務を経験。2019年12月から「みてね基金」の立ち上げを開始。現在はみてね基金事務局に関わりながら、MIXIの複数部門の業務を手がける。



Speaker

小崎 亜依子 氏

日本民間公益活動連携機構(JANPIA) 出資事業部 部長

2024年1月より、JANPIAの出資事業部をリードし、日本におけるインパクトファーストなインパクト投資市場の創造に取り組む。ESG投資のプロフェッショナルとして、2007年より日本総合研究所において、企業のESG側面の分析手法を開発し、金融機関等のESG投資戦略や商品開発を支援。日本証券アナリスト協会設置の「企業価値分析におけるESG 要因研究会」委員などもつとめ、日本におけるESG投資の普及啓発にも貢献。2020年から2022年まで、金融庁においてサステナブルファイナンス専門チームの立ち上げや関連政策の策定支援に携わる。ピッツバーグ大学公共政策国際関係大学院・修士課程修了、慶應義塾大学総合政策学部卒。公益社団法人日本証券アナリスト協会 認定アナリスト(CMA)



Moderator

川端 元維

一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・エコノミー・ラボ インパクト・カタリスト

大学卒業後、カナダのソーシャルベンチャーでインターンを経験。帰国後、自動車部品メーカーの法人営業として欧州・アジア市場等を担当。全寮制の中高一貫校に出向し国際キャリア教育に携わった後に転職、教育系企業での新規事業開発と米国IPOの日本担当を兼務。2015年に「人・組織・社会の変容デザイン事務所innovate with」を設立。海外の財団や投資家と日本の社会起業家をつなぎ、インパクト戦略策定・実行支援・評価を行いつつ、日本各地で起業家精神を育むエコシステムづくりに携わる。2023年、世界の社会変革の知見を日本の現場につなぐために当財団インパクト・エコノミー・ラボに参画。イギリスの政治経済大学院でソーシャルビジネスとアントレプレナーシップの修士号取得。

5月16日(木)

14:50 - 15:40

無料 セッション

【協賛セッション④】

インパクト“K”プロジェクト座談会～業界をリードするインパクト投資家が、実効性のあるインパクトファンドの実現を語る～

社会課題の解決やインパクトエコノミーの実現に向け、インパクト投資家の目線の先にあるものは？

本セッションでは、かんぽ生命によるインパクト投資の認証制度「インパクト“K”プロジェクト」を介して集まった、業界をリードするインパクト投資家が、実効性のあるインパクトファンドの実現に向けた取り組みや今後の展望について意見を交わします。

【協賛：株式会社かんぽ生命保険】



Speaker

宜保 友理子 氏



Speaker

秦 雅弘 氏



Speaker

梅田 和宏氏



Speaker

松本 英高 氏



Moderator

高木 麻美

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ(KII) プリンシパル

シリコンバレーでコーディネーターとして経験を積む。シンクタンクを経て、技術移転機関(TLO)設立など研究成果の社会実装プラットフォーム構築や、慶應義塾大学にて医学部および、創設に関わったイノベーション推進本部の特任准教授としてメディカルヘルスケア領域の大型プロジェクトをリードするなど、国内外で産学官連携業務に20年以上従事。KIIにて、リレーションズマネジメントと、インパクト投資を推進。金融庁インパクトコンソーシアム地域・実践分科会座長、産学連携学会理事、インパクト志向金融宣言運営委員も務める。

GLIN Impact Capital 代表パートナー

三菱商事で事業会社の経営再建に携わった後、ブラジル駐在を契機にサステナブルファイナンスに興味を持ち、ハーバードビジネススクールへ留学。インパクト・ESG投資に関する知見を深め、Anzu Partners(米国VC)やJAFCOで経験を積んだ後、GLIN Impact Capitalを共同創業。インパクト志向金融宣言におけるVC分科会座長や環境省のClimate Techインパクト評価・マネジメントに関する検討会の委員も務める。

SIIFインパクトキャピタル株式会社(SIIFIC) 共同創業・代表パートナー

自身の創業とEXITの経験から、足元を見られがちなスタートアップこそ、インパクト評価を導入し、価値形成をしなければならないと、SIIFICを共同創業。
2022年～SIIFインパクトキャピタル株式会社 共同創業・代表パートナー
2015年～2022年 エムスリー株式会社 投資担当パートナー
2016年～2022年 エムスリーアイ株式会社 代表取締役社長 シーズロケット有限責任事業組合 主任組合員
2013年～2015年 株式会社産業革新機構 ヴァイスプレジデント
2005～2013年 日本アジア投資株式会社 本社長室長、シンガポール支社長、インドネシア支社長、タイランド支社長、シリコンバレー駐在員 等

株式会社かんぽ生命保険 オルタナティブ投資部プライベートエクイティ投資担当

慶應義塾大学大学院修了後、かんぽ生命入社。入社以降、主に資産運用部門においてキャリアを積み重ねてきた。現職では、プライベートエクイティ投資を担当し、インパクト投資プログラムの立ち上げを主導。現在は、インパクト・CVC領域を中心としたファンド投資業務に従事している。

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ理事、
株式会社Stem for Leaves代表取締役

多様な業種における全社戦略・部門別戦略の策定・実行支援のほか、新規事業立ち上げ支援、M&A、企業再生等の実績を有する。公共セクターに対しては、調査研究や事業実施支援の経験を有し、近年はインパクトの可視化やデータ活用に注力している。PwCコンサルティング、ペイン・アンド・カンパニー、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、EY新日本有限責任監査法人を経て(株)Stem for Leavesを設立し、代表取締役役に就任、現在に至る。多摩大学社会的投資
研究所客員研究員。早稲田大学政治経済学部卒業。
ワシントン大学行政経営大学院修士課程修了(MPA)

5月 16日(木)

16:00 - 16:50

有 料 セッション

【通常セッション④】

データから見る日本における インパクトエコノミーの現状

2017年の設立以来、SIIFは様々な調査を実施し、多くの定量データを蓄積してきました。また各種の研究会の運営を担い、メンバーとして参画することで、広範な有識者、実務家の定性的な知見も収集してきました。それらデータ、知見の蓄積を通じて、インパクト投資やインパクトエコノミーの進展について、現在地や今後の課題も見えてきています。本セッションでは、これまで得られたデータ、知見からわかる数年の変化を概観しながら、インパクト投資やインパクトエコノミーがメインストリームになるにはどんなドライバーが必要となるか、などを議論していきます。



Speaker

太田 珠美 氏

株式会社大和総研 金融調査部ESG調査課長、主任研究員

慶應義塾大学法学部法律学科卒業、早稲田大学大学院ファイナンス研究科修了(ファイナンス修士)。大和証券株式会社でリテール営業や企画部門を経た後2010年に大和総研に転籍。日本株式市場やコーポレートファイナンス関連のリサーチ業務に従事2017年からサステナブルファイナンスを担当、2019年より現職。日本証券業協会「カーボンニュートラル実現に向けた証券業界に対するアドバイザリーボード」メンバー。主な著書に「理系人材のための金融経済リテラシー」(一般社団法人金融財政事情研究会、共著)、「資本市場に向けた人的資本開示」(一般社団法人金融財政事情研究会、共著)など。



Speaker

工藤 清美 氏

株式会社エフピーブラッサム 代表取締役／CFP®、1級FP技能士

大学卒業後、シンクタンクに勤務。結婚後は夫のシンガポール赴任に同行し2人の子育てに奮闘する。専業主婦歴約10年の後、仕事に復帰。金融機関に勤務しながら、早稲田大学大学院ファイナンス研究科を修了。論文「ドルコスト平均法の有効性の分析～リスクの視点から」で日本P学会賞を受賞する。2012年にFPとして独立。米国でのFP視察に刺激を受け、現在は商品販売に頼らないフィードベースの顧問FPとして、お客様の資産形成をサポートする。日本P学会正会員、WAFP関東(女性FPの会)元会長(～2023)。著書「資産形成トレーニング」PHP研究所)。



Moderator

織田 聡

一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・エコノミー・ラボ ナレッジ・ディベ
ロップメント・オフィサー

鉄鋼メーカーの原価管理を皮切りに、留学、戦略コンサルティングファーム、スタートアップ企業等を経て2019年当財団に参画。調査研究チームリーダーとして、インパクト投資やインパクト・マネジメントなどの実践知を形式知化、体系化しKFS(成功要因)を編み出すことが目下の最重要課題。仕事を行う上でのモットーはInspire, impact and innovate Japan”。ソーシャル・イノベーションにより日本を社会課題解決先進国にすることを志しているMBA、USCPA(Initial Certificate)。

5月 16日(木)

16:00 - 16:50

無料 セッション

日英
同時通訳

【通常セッション⑤】

国連「持続可能な開発パフォーマンス指標(SDPI)」のご紹介～サステナビリティ指標を持続性達成に必要な水準との相対的評価において考える

国連社会開発研究所(UNRISD)は、昨年「持続可能な開発パフォーマンス指標(SDPI)」を開発し、運用に向けての動きを開始しています。この新たなサステナビリティ指標は、現在の ESG 関連指標が「何をどこまでやれば持続可能なのか」を規定していない弱みをもとに、「持続性達成に必要な水準との相対的評価」を検討する諸指標を集約するものです。サステナビリティの境界線やしきい値(threshold)で持続可能性を考える動きはこれから加速していくと考えられ、本セッションではその具体的な取り組みを取り上げます。



Speaker

Ilcheong Yi 氏

Senior Research Coordinator, Alternative Economies for Transformation Programme & Transformative Social Policy Programme, UNRISD (United Nations Research Institute for Social Development)

国連社会開発研究所(UNRISD)オルタナティブ経済プログラムのシニア・リサーチ・コーディネーター。政治学者、社会政策専門家として、韓国ソウル大学、英国オックスフォード大学で学び、開発、SSE、社会政策、市場原理主義に代わる経済、民主的ガバナンス、脆弱な紛争国や国境地帯への統合的アプローチなど、さまざまな問題に取り組んできました。UNRISDに参加する以前は、九州大学准教授(2004-2008年)、マレーシアMalaya大学東アジア研究学部韓国国際交流財団客員教授(2003-2004年)、ノルウェーBergen大学Stein Rokkanセンター客員研究員(2002-2003年)などを歴任。開発に関する多くの著作があり、共編著に『Emerging Trends in Social Policy from the South』がある。2024年5月に『Emerging Trends in Social Policy from South: Challenges and Innovations in Emerging Economies』(Policy Press)を出版予定。



Moderator

今田 克司

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。現在、日本評価学会副会長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー。金融庁GSG共催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー等。歴任B Lab(B Corp 認証を司る米国非営利団体)Regional Standards Advisory Group - Asia 委員、Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員。

5月16日(木)

17:00 - 18:00

有料セッション

【通常セッション⑥】

次世代が語る「インパクト・ファイナンス」の今後。～ここが変だよ。インパクト投資。今後の目指すべき方向性とは？

インパクト志向金融宣言が走りだしてもうすぐ3年。署名機関によるインパクト・ファイナンスの残高も署名機関数も順調に伸びてはいるが、日本、そして世界におけるインパクト・ファイナンスはあるべき方向に向かっているのだろうか？原則や型、方法論が洗練されることは大事であるが、何か大切なものを見逃してはいないだろうか？今かけている視点は何なのだろうか？

インパクト志向インパクトファイナンス、ベンチャー投資、地域金融、アセットオーナーとしての実務に精通した次のインパクトファイナンスインパクト投資を指摘し、今思うことをぶつけ、今後の方向性を探ります。

【共催：インパクト志向金融宣言】



Speaker

石井 規雄 氏

コミュニティ・バンク京信 ソーシャル・グッド推進部 部長、インパクト志向金融宣言運営委員

2004年京都信用金庫入社、営業、本部勤務等を経て2019年から2年環境省出向し、ESG地域金融実践ガイドの策定やESGファイナンスアワードなどに携わる。その後2021年よりソーシャル企業認証機構に出向し、京都信用金庫、京都北都信用金庫、湖東信用金庫、龍谷大学との協業を通じ、社会課題の解決やESG経営を目指す企業に対し、評価・認証を行う認証を付与するソーシャル認証(S認証)の立ち上げから運営に携わる。



Speaker

藤井 昭剛
ヴィルヘルム 氏

リアルテックホールディングス 取締役執行役員社長、インパクト志向金融宣言運営委員

2014年よりヨーロッパ最大の気候変動対策のインキュベーターを運営するIT Climate-KIC(株)にて経営企画として人事業務や、全社の人事制度改革等に従事。在籍期間中に200を超えるベンチャーや新規事業のDDDや、出資先の環境インパクト評価も担当。2019年よりリアルテックファンドに参画。出資先ベンチャーの成長を加速するための採用・チームビルディング・人事制度設計等、幅広い人事業務のハンズオン支援を行う。2020年5月より現職。



Speaker

馬場 ちひろ氏

三井住友信託社銀株式会社行ESGソリューション企画推進部インパクトビジネス開発室主任調査役

2004年国際協力銀行(JBIC)入行後、組織改変に伴い国際協力機構(JICA)に移行。東南アジア向け政府開発援助(ODA)や金融関連業務に従事した後、フィリピン事務所に駐在。「ビジネスによって社会を変える」ことを目的に海外MBAを取得し、JICAにて民間向け投融資の制度設計を担当。現在は三井住友信託銀行にてインパクトエクイティ投資の評価・モニタリングやインパクトビジネス開発に携わる。



Moderator

橋爪 麻紀子 氏

(株)日本総合研究所 創発戦略センター シニアマネジャー、インパクト志向金融宣言融資・債券分科会副座長

2002年NTTデータに入社、留学を経て、2009年から国際協力機構にてインド向け援助事業に携わったのち、2012年より現職。長らく企業や事業のESG側面の金融商品の運用設計や資金調達の評価に関わり、近年ではインパクト投資・評価に関するコンサルティングから人材育成に従事。関連分野の執筆著書「ビジネスパーソンのためのSDGsの教科書」「行職員のための地域金融×SDGs入門」(いずれも共著)他。

5月17日(金)

9:30 - 10:20

有料セッション

【通常セッション⑦】

インパクトエコノミー時代を体現 する新しい起業家たち

2023年にSIIF公式noteで開始した連載『インパクトエコノミーの扉』。インパクトエコノミーをもっと身近に理解するために起業家を取材・特集した7回の連載企画です。今回は連載で取り上げた起業家の中からの株式会社on the tripの成瀬氏、株式会社N-ARKの田崎氏をお招きして、インパクトエコノミー時代の起業家は何が新しいのかを深掘りしていきます。

https://note.com/siif_pr/m/m0b881c51d1a5



成瀬 勇輝 氏

Speaker

株式会社ON THE TRIP 代表取締役

早稲田大学で経済学を学び、バブソン大学に留学、起業学を学ぶ。その後世界中の起業家をインタビューしながら世界一周。帰国後はモバイルメディアABI LABOを創業。2017年より、あらゆる旅先の物語を伝えるオーディオガイド『ON THE TRIP』をスタート。旅の経験から、書籍『自分の仕事をつくる旅』(ディスカバー21)、『旅の報酬』(いろは出版)を上梓。



田崎 有城 氏

Speaker

N-ARK(ナーク)代表取締役 | 総合プロデューサー

ビジュアルデザインスタジオWOW勤務時に公共施設やアートパビリオンなど建築プロジェクトを担当。同時にリアルテックファンドメンバーとしても多数のテックベンチャーと並走しながら総合的ハンズオン支援を行う。サイボーグベンチャー『MELTIN』国内外でのモメンタム作りに貢献、シリーズBにおいて20.2億円調達。人工培養肉ベンチャー『IntegriCulture』、風流予測ベンチャー『Metro Weather』、パーソナルモビリティ『WHILL』など、多数のテックスタートアップ支援を実施している。又、先端研究者インタビューメディア『esse-sense』も経営する。



古市 奏文

Moderator

一般財団法人社会変革推進財団

インパクト・エコノミー・ラボ インパクト・カタリスト

大学卒業後、大手メーカーで製品開発に携わった後、外資系コンサルティング会社にて戦略コンサルティング・M&Aアドバイザーの経験を積む。その後JT企業のコーポレートベンチャーキャピタルや独立系のベンチャーキャピタルにてベンチャー投資に従事し2018年に当財団に参画。ソーシャル領域のキャピタリストとして活動。はたらきUND(日本インパクト投資2号ファンド)の立ち上げや、株式会社アドレスへの出資・事業支援を担当している。直近では、新しい資源循環の仕組みづくりを研究開発するシードアクセラレータープログラム「ハルキゲンアラボ」のプロジェクトリーダーを務めている。

5月 17日(金)

9:30 - 10:20

有 料 セッション

【通常セッション⑧】

財団によるインパクト志向の取り組みの最前線

「インパクト」、「システム・チェンジ」、「インパクト志向」。最近よく聞くこの言葉、具体的にどのような活動を指すのか？このセッションでは、ゲストに30年以上続く公益財団法人と、設立5年の新興財団、それぞれの財団法人が実践するインパクト志向な取り組みの具体例をご紹介します。



Speaker

川野 紘子 氏

川野小児医学奨学財団 事務局長

総合人材サービス企業の営業部やWEBサイト運営企業の人事部にて勤務後、英国の大学院にて International Human Resource Management MScを取得。その後、父が長男を亡くしたことをきっかけに1989年に創設した(公財)川野小児医学奨学財団の事務局長に就任。日本の小児医学の発展を目指し、研究者や医師、医学生などに対する支援事業を行っている。子どもたちが直面する問題が複雑化・多様化する中で、「みんなでのりこえる」をテーマに戦略の構築、そしてインパクト測定を取り入れた活動の見直しなど幅広く事業に携わっている。



Speaker

玉川 絵里 氏

一般財団法人 ミダス財団 事業統括

2012年東京大学法学部を卒業し、同年三菱総合研究所入社。『イノベーションによる解決が期待される社会課題一覧(日・英)』2022年、三菱総合研究所)や、『「共領域」からの新・戦略 イノベーションは社会実装で結実する』2021年12月、ダイヤモンド社)などの発信実績をもつ2024年1月よりミダス財団に事業統括として従事し、社会的養護を必要とする子どもたちのための事業として特別養子縁組事業に取り組む。



Moderator

小柴 優子 氏

フィランソロピー・アドバイザーズ株式会社 代表取締役

新卒で日本GEに就職。ファイナンスのリーダーシッププログラム修了後、同社のエネルギー部門にて勤務。退職後、米国コロンビア大学国際公共政策大学院卒業に留学。在学中 Rockefeller Philanthropy Advisorsにてインターン、そして、ジョージ・ソロスの財団にてコンサルタントとして勤務。帰国後、日本財団と、関連財団の社会変革推進財団(SIIF)にてインパクト投資の推進を行う。2023年に、個人の資産を活かした社会貢献活動のアドバイザー・ファーム、フィランソロピー・アドバイザーズ(PA inc.)を共同創業。日本人で初めて米国フィランソロピー・アドバイザー資格AP®を取得。

5月 17日(金)

10:30 - 11:20

有 料 セッション

【通常セッション⑨】

「IMPACT SHIFT」を経て見えてきたもの ～Z世代の4人がインパクトのこれからを考える

2024年3月3日(日)に約650名の来場者を迎えて実施した「IMPACT SHIFT」。インパクトスタートアップ、ゼブラ企業、ソーシャルセクターなど、社会課題解決にまつわる様々なセクターが、業界横断で議論しました。企画したのは組織を超えた20代を中心とする実行委員会。今回のセッションでは、IMPACT SHIFT実行委員会に所属するZ世代の4名が、これからのインパクトのあり方やこれから向き合う未来について、IMPACT SHIFTを経て感じたこと・考えたことを共有します。

【協力:IMPACT SHIFT】



Speaker

阪本 菜 氏



Speaker

佐藤 真陽 氏



Speaker

木暮 里咲 氏



Moderator

一柳 宙 氏

株式会社Zebras and Company

1999年東京生まれ。都内の高校を卒業したのち、アメリカ・ウエストバージニア州にあるウェストバージニアウェズリアン大学に留学。アート経営学、ジェンダー学を学ぶ。2021年からZebras and Companyでインターンとして働き始めたのち、2022年7月に同社の第1号社員として新卒入社。現在は支援先のグラフィック制作やメディア運営に加え、今年月21日に下北沢で行われるZEBRAHOOD2024の運営にも携わる

一橋大学大学院社会学研究科修士課程

一橋大学大学院社会学研究科修士課程在学中。大学在学中カンボジアでのインターンシップや内閣府国際交流事業「世界青年の船」への参加を通して、「社会課題の解決とは何か」ということを考えはじめる。立命館アジア太平洋大学在学中に、プラスソーシャルインベストメント株式会社のスタッフとして、主に立命館ソーシャルインパクトファンドのサポート業務に従事。

株式会社STYZ Syncableファンドレイザー、日本ファンドレイジング協会 ユースチャプター 設立発起人

23歳。准認定ファンドレイザー。株式会社STYZが運営する寄付プラットフォームサービスSyncableにて、ファンドレイザーとして非営利団体の伴走を担当。日本ファンドレイジング協会のチャプター制度を活用し、「ユースチャプター」を発起人メンバーとして設立。志を同じくするファンドレイザー同志がつながり、知識や経験を共有し、個人的・職業的・業界的な成長を目指すコミュニティを運営。寄付月間共同事務局で寄付文化醸成を目指し、大学生時代から運営メンバーとして活動をして、今年5年目に突入。その他Bcorp認証取得に向けた業務を担当。認証取得に向けたリードと提案、資料作成、インタビュー等一連のプロセスをサポート。

株式会社UNERI インパクトキャタリスト、一般社団法人ソウレッジ ポリシーインパクト事業部

1998年生。2020年より避妊薬の無償提供・性教育・女性支援等を行う一般社団法人ソウレッジへ参画。緊急避妊薬の無償提供を行う「おひさまプロジェクト」にて事業開発・営業等に従事。2023年より株式会社UNERIに参画。行政事業において実施責任者を担当。ロジックモデル作成業務、新規事業立案プロジェクト等に従事。IMPACT SHIFT実行委員として、サイト構築・クリエイティブ・事務局等を担当。

5月 17日(金)

11:30 - 12:20

有 料 セッション

【通常セッション⑩】

"B" THIS WAY FORWARD ～日本で動き出す B Corpムーブメントの最新動向

環境と社会に配慮した事業活動を行う企業の国際認証制度「B Corp」。日本でも注目が高まり、2024年3月時点で日本法人のB Corp認証取得企業は40社となりました。グローバルで先行するBムーブメントを拡大するため、遂に日本のB Corpムーブメントを推進する、いわゆるB Labの支部に相当する組織「一般社団法人B Market Builder Japan (BMBJ)」が2024年3月に創設され、B Lab Japan設立に向けた動きが本格的に動き出しました。B Corpにどのようなメリットがあるのか、また世界と日本、アジアにおけるB ムーブメントの最新動向と活動について紹介します。



Speaker

鳥居 希氏

B Market Builder Japan 共同代表、株式会社バリューブックス 取締役

2015年、古本の買取・販売を行うバリューブックス(長野県上田市)入社。同社にB Corporation™の認証取得に向けて取り組む。自社のプロセスと並行しB Corpムーブメントの一助となるべく『B Corpハンドブック よいビジネスの計測・実践・改善』を黒鳥社との共同プロジェクトによるコミュニティで翻訳。2022年6月バリューブックス・パブリッシング第一弾書籍として出版。2024年2月、B Lab Globalの日本パートナーB Market Builder Japan 設立・共同代表。



Speaker

溝渕 由樹氏

B Market Builder Japan 共同代表

三井物産法務部での勤務を経て、2019年に環境にもわたしたちにもやさしいプラントベースベイクショップ、ovgo Baker(オブゴベイカー)を創業。同社にて2022年12月にB Corp認証を取得以降、日本におけるB Corp Movementに携わる。2024年2月、B Lab Globalの日本パートナーB Market Builder Japan 設立・共同代表に就任。



Moderator

今田 克司

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。現在、日本評価学会副会長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー、UNDP認定SDGインパクト基準トレーナー。金融庁GSG共催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー等歴任。B Lab(B Corp 認証を司る米国非営利団体Regional Standards Advisory Group - Asia 委員、Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員。

5月17日(金)
12:20 - 12:50

無料 セッション

【クロージング】

クロージング・トーク



伊澤 健

Speaker

シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役、コモンズ投信株式会社 取締役会長、株式会社and Capital 代表取締役CEO、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ評議員

ISSB(国際サステナビリティ基準審議会)議長の特別顧問およびFVI理事、GSG国内諮問委員会の委員長、インドのベンチャーキャピタルChiratae Venturesアジア・アドバイザリーボードのメンバーに就任。さらに近年では、Triple I for GH: Impact Investment Initiative for Global Health(グローバルヘルスのためのインパクト投資イニシアチブ)の共同議長に就任。経済同友会幹事およびグローバルサウス・アフリカ委員会委員長、岸田政権「新しい資本主義実現会議」等、多数の政府系委員会の委員、東京大学総長室アドバイザー・JNDP(国連開発計画)SDG Impact Steering Group 委員、等。

一般財団法人社会変革推進財団 常務理事

大学卒業後、日系大手総合商社勤務を経てアメリカの大学院で国際開発学の修士号を取得。大学院在学中、インパクト投資ファンドのパキスタン事務所でのインターンに参加。帰国した2011年より、日本財団へ入所し、日本ベンチャーフィランソロピー基金、ソーシャルインパクトボンド事業、GSG国内諮問委員会など様々なプロジェクトに携わりました2017年4月に日本財団からスピンアウトする形で当財団を設立し常務理事に就任。インパクト投資全般の企画・推進をリードしてきました。当財団ではオルタナティブ事業、社会起業家支援を中心に事業全般を統括。



工藤 七子

Speaker

一般財団法人 社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ代表理事、株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役

米国(6年)、南アフリカ(5年半)含め市民社会強化の分野でのNPO/NGOマネジメント歴25年。現在、日本評価学会副会長、休眠預金等活用法における指定活用団体評価アドバイザー・JNDP認定SDGインパクト基準トレーナー。金融庁GSG共催「インパクト投資に関する勉強会」委員、経済産業省「インパクトスタートアップ選定に関する検討会」メンバー等歴任B Lab(B Corp 認証を司る米国非営利団体)Regional Standards Advisory Group - Asia 委員、Blue Marble Evaluation Advisory Council 委員。



今田 克司

Speaker

5月 17日(金)
16:30 - 18:00

無料 セッション
@官民共創HUB

【特別企画】

UNICEF チャイルド・レンズ投資を理解する

※当日のオンライン配信および後日アーカイブ配信はありません。

5/15 の基調講演でのチャイルドレンズ投資フレームワーク(CLIF)の紹介を受けて、日本国内、特に金融機関者周知のためにセミクローズドのセッションを行います(一部招待制)。フィンランド国内におけるCLIFの展開の説明を受け、日本国内におけるフレームワークの展望について、子ども視点に詳しいNGO関係者や金融関係者とともに考えます。

※別途お申込みが必要です。

詳細・お申込みはこちらから: <https://social-impact-day-2024-unicef.peatix.com>



Speaker

Alexander Rostami 氏

Chief and Founder of UNICEF's Global Innovative Finance Hub in Helsinki

2021年から、ヘルシンキに拠点を置くユニセフのグローバル・イノベティブ・ファイナンス・ハブの事務局長兼チーフとして、子どもたちのための革新的な資金調達ソリューションの推進に注力し、投資において子どもの利益を最優先に考える先駆的なフレームワークであるチャイルド・レンズ投資などのプロジェクトに携わっている。銀行、金融、国際開発分野で20年以上の専門知識を持ち、民間および公的セクターで複数の職務を歴任。



Speaker

Francesco Saverio Ambrogetti 氏

Principal Adviser of Innovative and Alternative Finance for Children (IF4C), UNICEF

イノベティブファイナンスのこれまでの実績として、UNICEFと世界銀行によるCOVID19対応のための1億ドルの債券発行(2021年、IFLRIによるBest Deal of the Year受賞)、8カ国をカバーする1億ドルのサイクロン保険(2023年にInsurance ERMのSustainable Insurance Initiative of the Yearを受賞)、欧州投資銀行・欧州委員会・ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団と実施した初のポリオのためのアウトカム・ファイナンスの仕組み(5億ドル)、Children Investment Fund Foundationと国連開発資本基金(UNCDF)と実施したアフリカにおける栄養のためのファイナンス・ファシリティー(500万ドル)、ジェンダー平等(YWCA)、人種間平等(NAACP)、SDGs(UNCDF)の3つの上場投資信託(ETF)がある。これまで25年以上にわたり UNICEF、UNFPA、UNAIDS、MSF、WWF、赤十字などのグローバルな組織で資金調達を主導。ボローニャ大学およびミラノのIULM大学教授。著書には『Emotionraising: How to astonish, disturb, seduce and convince the brain to support good causes』(2016年、Civil Society Press)、『Hooked on a feeling: How passion and devotion for good causes become memories and identities』(2021年、Hillborn)などがある。

5月17日(金)
18:30 - 20:30

無料 セッション
@官民共創HUB

【特別企画】

BlueMarkとインパクト検証

※当日のオンライン配信および後日アーカイブ配信はありません。

5/15 の基調講演者であり、インパクト投資分野のグローバルリーダーの一人として活躍しているBlueMarkのChristina Leijonhufvudを迎え、前半1時間でBlueMarkの第三者検証を中心とした事業紹介を行い、日本国内でBlueMark のサービスを活用している2社からコメントをもらいます。後半は、BlueMark がホスト役のインフォーマルなレセプションになります。一部招待制。

※別途お申し込みが必要です。

詳細・お申し込みはこちらから <https://social-impact-day-2024-blumark.peatix.com>



Speaker

Christina Leijonhufvud 氏

BlueMark CEO

ウォール街で上級職を務めた実績を持つインパクト投資分野での著名なリーダー2020年、コンサルティング会社Tidelineからスピンアウトした新しいインパクト検証事業であるBlueMarkのCEOに着任。BlueMark チームを監督し、さまざまな投資家タイプやアセットクラスで数多くの検証業務を直接指揮してきているまた、Tidelineの共同設立者兼マネージング・パートナーとして、主要な財団、世界最大級の金融仲介機関、ファミリー・オフィスや非営利団体とのコンサルティング業務の多くを主導してきた。現在CASE i3、Impact Assets 50審査委員会、BRAC USA諮問委員会の委員を務めるほか、BRAC USAやその他いくつかの非営利団体の理事を務めている。